



楼門 破損した部材

今月の解体格納工事は、部材調査を中心に行いました。解体した部材は解体材保存小屋に格納していくのですが、格納前に、図面を製図するための実測調査や、どのように部材を修理するのか方針を決めるための調査を行ってから格納していきます。上層の部材で、未格納部材の調査を行いました。



楼門 破損した部材の繕い・取替調査

楼門は、何万といった数の部材で構成されています。それら1個1個の修理方針を決め、野帳に記録していくため、膨大な時間と労力が必要です。1つでも多くの部材を救えるよう色々な修理方法を検討します。そのような調査を、大工さんと共に行っています。



楼門 破損した部材修理中

調査の結果、割れ等の破損ですんだことが判明した部材は、順次接着剤付けを行いました。余計なところに接着剤がつかないように養生テープを張ってから破断面に接着剤を塗って、ずれないように慎重に貼り合わせます。接着剤が乾くまでしっかりと締め具で固定します。



還御門 破風板埋木

破風板の一部が、雨によって腐朽していたので、埋木を行いました。
破風板は長年風化にさらされているので、埋木した箇所と元々の箇所は、はっきりとした色味の違いが出てしまいます。



還御門 埋木古色付け

埋木した箇所が目立たないように、古色付けを行いました。
色味だけでなく破風板の風蝕にも合うように、この埋木は表面をトーチ焼きして焦がしてからブラッシングして木目を浮き立たせました。
少しだけ焦げ目を残して古色付けしたような風合いに仕上げました。



還御門 遠くから望む

2箇所埋木を行っていますが、元の破風板に近い風合いになりました。



**還御門
修理中の足場**

修理のために足場を設置して
いました。
7月末には御田祭が控えている
ため、それまでに足場が解体で
きるよう、修理を進めました。



**還御門
足場解体完了**

門の上方の修理が完了し、御
田祭前に足場が解体できまし
た。



**神幸門・還御門
門扉開閉確認**

門扉も問題なく開閉でき、無事
御田祭を迎えることができました。
た。